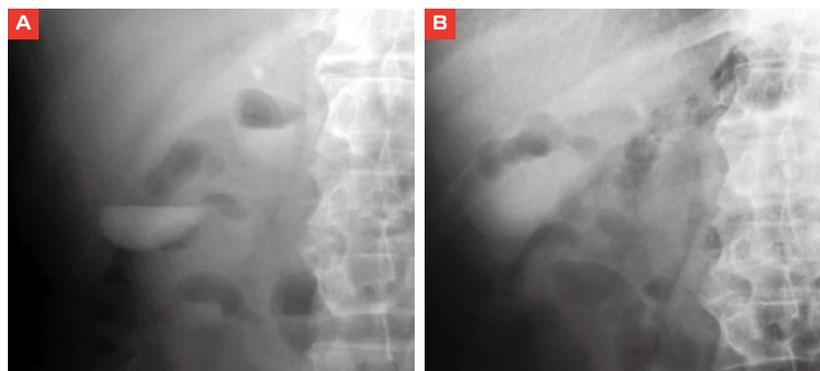


疾患の定義・特徴

- 高濃度の炭酸カルシウムを含有する胆汁である。
- 腹部単純 X 線の石灰化像が特徴的で、立位で鏡面像を呈し、臥位にて形態が変わる。
- 成因には諸説あるが、いずれも共通して胆嚢管閉塞に起因としている。
- 色調は通常乳白色を呈していることが多い。
- 硬度により **1** 乳状液状、**2** 練乳状、**3** 糊状・練歯磨状、**4** 白墨様結石の 4 型 (Berg の分類) が用いられる。

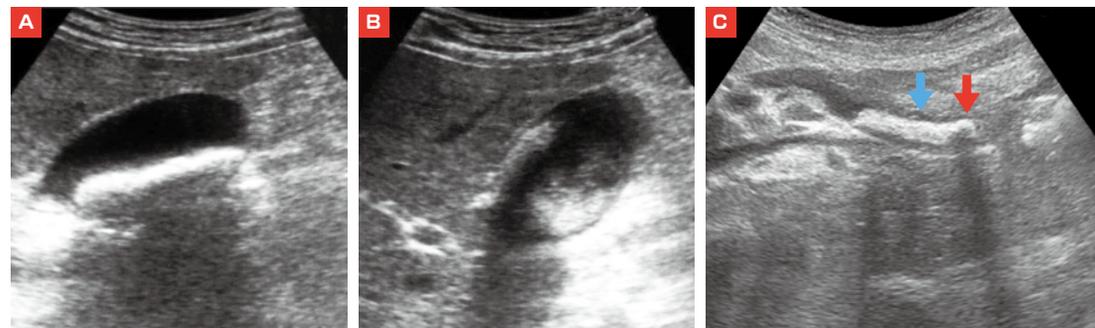
腹部単純 X 線

A: 立位。鏡面像を伴う石灰化像を認める。**B**: 臥位。形態の変化を認める。



腹部超音波検査

A: 背臥位。鏡面像の音響陰影を伴う高輝度エコー像を認める。**B**: 体位変換にて形態が変化する。**C**: 総胆管への流出例。落下結石 (→) と肝側の高輝度エコー像 (→) を認める。



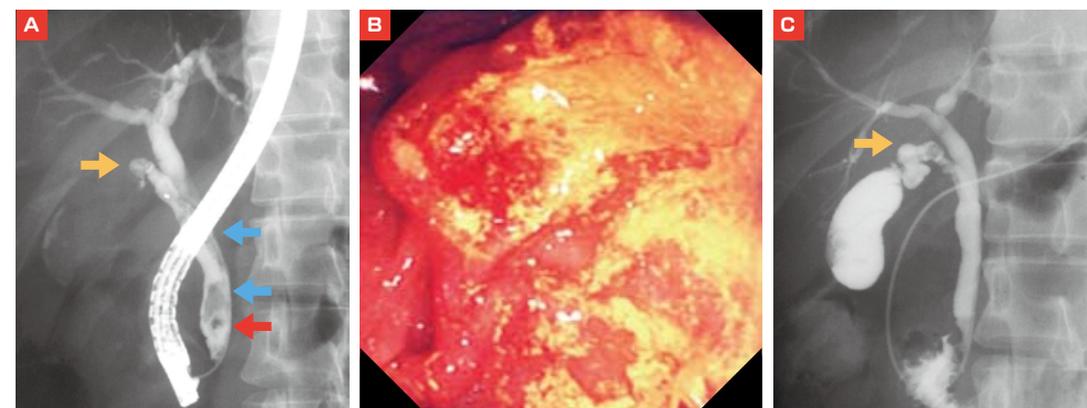
CT

胆嚢底部 (→) および総胆管 (→) に鏡面像を呈する石灰化像を認め、胆嚢管 (→) に結石嵌頓像を認めることが多い。



ERCP

下部胆管に結石像 (→) および肝側の不整形の透亮像 (→) を認め、胆嚢管結石嵌頓 (→) により胆嚢が造影されない。EST により練乳状の乳白色の胆汁排出を認める。さらに胆嚢管結石嵌頓 (→) に対しては ENGBD を行う。



1 乳液状



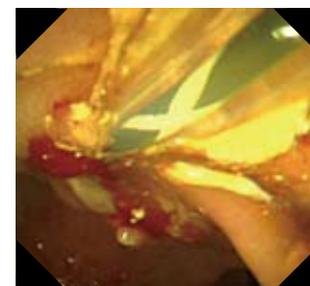
切除胆嚢

2 練乳状



EST 後

3 糊状



EST 後

4 白墨様結石



結石回収

診断のポイント

- 腹部単純撮影では立位、腹部超音波検査では背臥位で鏡面像を呈し、体位変換により形態が変わる。
- 胆嚢頸部の器質的閉塞を伴うものが 95.9 % で、その原因として結石嵌頓による閉塞が最も多い。
- 胆嚢癌による閉塞例も報告されているので注意を要する。
- 胆嚢管嵌頓結石が総胆管へ移動すると、硬度が低い石灰乳胆汁は総胆管へ流出して閉塞性黄疸をきたすので、CT 検査は必須である。

(新戸禎哲)